

二輪車の交通事故情勢と安全対策

警察庁交通局交通企画課 課長補佐 水代 智氏「人と車」2016年8月号
(文書の要旨のみ記述しました。表現を一部変更しています)

■ 二輪車の交通事故発生概要

平成27年中に二輪車乗車中の交通事故で24時間以内に死亡した者は677人で、一昨年に比20人減。1種原付は25人減、2種原付は1人減、自動二輪は6人増。H18～H27の10万台あたりの死者数は自動二輪+1種原付で35～40%減だが、2種原付は微減に留まっている。

■ 平成27年の二輪車交通死亡事故の主な特徴

● 通行目的別死者数

二輪車の乗車中死者数は、自動二輪321人、2種原付126人、1種原付230人で、自動二輪は、ドライブ(ツーリング)が135人で観光・娯楽21人を加えると48.6%。2種原付は、出勤が最も多く、退社、職業運転、職業目的を加える(以下「業務関係」という)と41.3%。1種原付は、業務関係が35.7%。

● 目的別・年齢別・性別死者数

「業務関係」事故の年齢別では、自動二輪が30歳代、2種原付が40歳代、1種原付では60歳代が最も多い。日常の私用では、自動二輪は20歳代が最多で、1種原付は70歳代、80歳代が多い。また、1種原付はすべての合計で女性の割合が31.7%と高い(他は4%台)。自動二輪の致死率(死者数÷死傷者数)は自動車の5.6倍と高い。

● 事故類型別死者数

「人対車両」「車両相互」「車両単独」「列車」の種類のうち、自動二輪は車両相互が64.2%で、うち右折直進事故が最多。また、車両単独の工作物衝突事故が20%以上。2種原付は、車両相互が67.5%で、うち出会い頭事故が最多で、右折直進事故が続く。1種原付は、車両相互が75.7%、うち出会い頭事故が最多で、1種原付全体の40.9%。

● 法令違反別死者数及び死亡事故件数

自動二輪では、1当・2当ともに最高速度違反が最多。次いで1当はハンドル操作不適違反、2当は対向右折車両に対する注意等の義務違反が多い。

2種原付の1当はハンドル操作不適違反が最多。次いで前方不注意(内在的)違反が多い。2当は対向右折車両に対する注意等の義務違反が最多。次いで交差道路通行車両に対する注意等の義務違反が多い。

1種原付の1当はハンドル操作不適違反が最多。次いで指定場所一時不停止等違反が多い。2当は交差道路通行車両に対する注意等の義務違反が最多。次いで安全不確認違反が多い。

● 損傷部位別・ヘルメット着用有無別死者数

677人中、頭部43%、胸部28%、その他29%。死者全員中、二輪車乗車中のヘルメット着用率は97.8%。事故時にヘルメットが離脱して死亡した人は202人で、自動二輪は25.9%、2種原付は34.9%、1種原付は32.6%であった。ヘルメット離脱による致死率は、離脱なしと比べて、自動二輪2.9倍、2種原付4.1倍、1種原付が3.9倍であった。

- 地形別・道路幅員等別交通事故死者数

「市街地」「非市街地」に分けて統計を取ると、非市街地における死者数の割合は、自動二輪 52.0%、2 種原付 33.3%、1 種原付 44.8%であり、自動二輪の事故が目立つ。

「単路」「交差点」「一般交通の場所」に分けた統計では、自動二輪は単路が 65.4%、交差点が 34.6%、2 種原付は単路が 56.3%、交差点が 43.7%と、いずれも単路の事故が多く、1 種原付は単路が 47.8%、交差点が 50.9%と交差点での事故が多くなっている。なお、いずれの車種も単路の幅員が「9m 未満」と「9m 以上」では、9m 未満での事故が圧倒的に多い。

- 都道府県別の二輪車乗車中死者数

死者の多い順に都道府県(発生地人数・居住地人数)を記すと、①大阪(54・57) ②神奈川(39・32) ③東京(38・46) ④兵庫(36・41) ⑤埼玉(38・46)・愛知(34・40)などとなった。

本論文によると、⑦静岡(39・32)や⑩山梨(10・6)など観光地等を有する県では、発生地としての死者数が居住地としての死者数を上回っており、逆に愛知や東京では、居住地としての死者が多くなるなど、一部の都道府県で発生地別と居住地別で死者数に違いが見られるという分析がなされている。

- 二輪車の交通事故防止対策の考え方

自動二輪、2 種原付、1 種原付では、それぞれの事故特徴に異なる部分がある。例えば使用目的では自動二輪ではドライブ等が多く、2 種原付は業務関係が多い。1 種原付は業務関係に加えて買物等の日常生活に伴うものも多くなっている。年齢層も二輪車の区分により、状況が異なる。これらの特徴を考慮して事故防止対策を考慮していく必要がある。

- 共通の対策

どの区分においても、「二輪であるため転倒しやすい」「四輪車と違い体を守ってくれるボディがない」「致命傷となった損傷部位は頭部と胸部」という特徴は同一で、二輪車利用者の致死率が高いことから、「ヘルメットの適正な着用と二輪車用プロテクターの確実な着用」の啓発や指導を強化していくことが区分に関係なく重要である。

- 自動二輪車の対策

「制限速度の遵守や道路状況に応じた安全な速度での走行」「自動二輪の性能や自己の体力、技量をよく把握した無理のない走行」に加え、「四輪車から見た自動二輪の見え方」等を指導し、右折車両との衝突の危険性を啓発していく必要がある。

- 2 種原付の対策

職場等を通じた、交差点における交通法規の遵守や確実な安全確認の実施等の指導を行うとともに、一般道路では、速度制限や右折方法等の交通規制が 1 種原付と異なり自動二輪と同じで、1 種原付と比べ危険認知速度も高いことから、運転操作技術の向上等の指導を強化していくことが重要である。

- 1 種原付の対策

1 種原付は、出勤・退社、買い物等広く日常生活に使用されており、死者の年齢的には 60 歳以上が多く、中でも 70 歳以上が最も多くなっている。発生場所では交差点での死者構成率が半数を超えている状況で、事故類型では車両相互の出会い頭事故が多い。

これらから、スーパー、娯楽施設、病院等、1 種原付利用者が多く集まる場所での啓発活動に加えて、会社等に勤めている年代を対象に、企業と連携した講習会の開催が有効であり、安全教育や指導の内容は、交差点における法令遵守や安全確認等の徹底が重要である。

- 二輪車事故防止対策例
 - 安全運転教育等の充実

警察では、警察独自の二輪車安全教室等のほか、「二輪車販売業者等と連携した中高年二輪車愛好家に対する講習会や若いツーリング参加者に対する安全運転スクール」「各都道府県の二輪車普及安全協会等が主催するグッドライダーミーティング(体験型実技講習会)」「学校等と連携した原付免許を含む二輪免許を取得した高校生に対する二輪車の安全利用のための安全運転教育」等に白バイ隊員を派遣する等、全国各地で取り組みを行っている。
 - 効果的な啓発活動

各都道府県警察等が行っている活動には、次のようなものがある。

 - ◇ 二輪車利用者が普段から多く集まる場所の活用例

「ツーリングライダーが立ち寄る道の駅や観光道路の休憩所施設等におけるキャンペーンの開催」「コンビニ、給油所等、二輪車が立ち寄る場所での安全指導やチラシの配布、ポスターの掲示」「1種原付等の利用者が多く利用するスーパー等の駐車場での安全指導」等
 - ◇ 二輪車利用者が多く集まる機会の活用例

「モーターサイクルショー」「元バイクレーサーを招いた白バイ隊員との安全運転トークショー」「中高年ライダーに馴染みの深い仮面ライダー等を演じた俳優の皆さんをゲストとして招いたキャンペーン」「日本自動車工業会等が実施している『バイクの日』(平成元年7月、政府の交通対策本部決定により8月19日を制定)に併せたキャンペーン」等
 - ◇ その他

毎年開催されている全日本交通安全協会と二輪車安全運転推進委員会主催の「二輪車安全運転全国大会」や、各都道府県における当該大会の予選等の機会等を活用した安全運転指導やヘルメットの正しい着用啓発等、関係機関団体の協力を得ながら広報啓発活動を展開しており、これらの活動を強化する必要がある。
 - その他

講習会やキャンペーン等に参加できない者に対して交通安全意識を向上させる取組として、職場、学校、仲間等のライダー数人でチームを組んで(個人での参加も可)一定期間中の安全運転を競い、無事故無違反を目指すコンテストがある。これは、無事故無違反をチーム対抗等で競う取組を行うことで、特に新しい行動を起こすことなく、楽しみながら、普段の運転行為の中で違反や事故を起こさない意識を高める効果があり、警察等の主催以外でも企業等が主体となって実施している例もある。

以上